



19世紀の電車旅行





開港長距離？

1883年、仁川開港場126年の歳月の痕跡が残る開港期の歴史と文化の出会いの場である。

ここは旧日本領事館である中区庁と日本第一銀行仁川支店、日本第18銀行仁川支店、日本第58銀行仁川支店など近代建築がそのまま見られる場所である。

それだけでなく、日本優先株式会社や仁川のアートプラットフォーム、済物浦(チェムルポ)クラブなど歴史の痕跡を直接目で見る事ができ、耳で聞くことができる場所だ。ここは仁川文化観光解説士が配置され、予約を受け付けて解説を行っている。より深い解説を聞きながら徒歩観光が楽しめるので、家族連れや旅行団体の人気を集めている。

[ネイバー知識百科]開港場通り(大韓民国の隅々、韓国観光公社)



<電車ツアー料金>

3名:39,000

5名:59,000

<運行時間>

10:00~17:00
(一時間毎の運行)

<電車ツアーコース案内>



[Aコース] 平日,週末 (50分)

仁川アートプラットフォーム->清日租界境界階段->
海岸聖堂->ジャージャー麵博物館->義宣堂->童話村->楚漢志壁画通り
->三国志壁画通り->済物浦俱樂部->仁川アートプラットフォーム



[Bコース] 平日,週末 (50分)

仁川駅向かい側の道路(出発)->中国式村役場->ジャージャー麵博物館->
博物館通り->済物浦俱樂部->自由公園, 童話村(倒錯)



[Cコース] 平日,週末 (50分)

17の観光地の中から4つを選択することができます。

1. 仁川開港場近代
建築展示館
2. 大仏ホテル
3. 童話村
4. 三国志壁画通り
5. 生活史展示館

6. 仁川開港博物館
7. 仁川市歴史資料館
8. 自由公園
9. 済物浦俱樂部
10. ジャージャー麵博物館

11. チャイナタウン通り
12. 清日租界境界階段
13. 楚漢志壁画通り
14. 韓中文化館及び華僑歴史館
15. 韓・中庭園の憩いの

16. 海岸聖堂
17. 虹霓門

Aコース



仁川
アートプラットフォーム

清日租界境界階段

海岸聖堂

ジャージャー 麵博物館

義宣党

出発

Photo Spot



童話村

楚漢志壁画通り

三国志壁画通り

濟物浦俱樂部

仁川
アートプラットフォーム

Photo Spot



濟物浦俱樂部

倒錯



Bコース

仁川駅
向かい側の道路

中国式村役場

ジャージャー麺 博物館

博物館通り

出発

濟物浦俱樂部

自由公園

童話村

Photo Spot

倒錯

倒錯



Cコース

17の観光地の中から4つを選択することができます。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 1.仁川開港場近代建築展示館 | 10.ジャージャー麵博物館 |
| 2.大仏ホテル | 11.チャイナタウン通り |
| 3.童話村 | 12.清日租界境界階段 |
| 4.三国志壁画通り | 13.楚漢志壁画通り |
| 5.生活史展示館 | 14.韓中文化館及び華僑歴史館 |
| 6.仁川開港博物館 | 15.韓・中庭園の憩いの |
| 7.仁川市歴史資料館 | 16.海岸聖堂 |
| 8.自由公園 | 17.虹霓門 |
| 9.済物浦俱樂部 | |



旅行会社が推薦
した開港観光地17ヵ所

1. 仁川開港場近代建築展示館



長崎に本店を置く日本第18銀行は、イギリスとの綿織物の仲介貿易で大きな利益をおさめ、1890年に仁川支店を開設した。その後、朝鮮殖産銀行仁川支店、韓国興業銀行支店として使用された。現在は近代建築展示館として改装し、数多くの近代建築物を展示している。木造トラスに日本式の瓦を使用した寄棟屋根で異国的な雰囲気をもし出す。

2. 大仏ホテル



韓国初の西欧式ホテルで、韓国で初めてコーヒーを販売した場所でもある。現在は大仏ホテルの展示館として運営されている。

3. 童話村



1883年に仁川港が開港し、多くの外国人が松月洞に居住して裕福な村を形成したが、数十年前から若い人たちがいなくなって年老いた人々だけがいた。活気を失った町は、都市再生事業を通じて2014年に童話村として生まれ変わった。村全体が「童話」をテーマに華やかに飾られており、様々な漫画の主人公たちが壁画、造形物などを通じて見られる。

4. 三国志壁画通り



三国志の小説に登場する劉備・関羽・張飛・諸葛亮などの武勇と智略が描かれた全長150mの大型壁画。歴史についての故事成語や絵を鑑賞しながら過去にタイムスリップしたような時間旅行が楽しめる。

5. 生活史展示館



大仏ホテル展示館のすぐ隣に生活史展示館がある。生活史展示館では、1960~70年代の仁川中区の生活史が紹介されている。様々なフォトゾーンが設けられており、写真を撮るのに最適です。

6. 仁川開港博物館



1883年に韓国初の近代的金融機関である日本第一銀行釜山支店の仁川出張所として開設。1888年には仁川支店に昇格した。初期には海関税と韓国で生産される金塊や砂金を買取る業務を代行していたが、徐々に預金やローンなどの銀行固有の業務を担当するようになった。左右対称・折衷主義様式の西洋式建築物で雄大さが印象的なスポット。

7. 仁川市歴史資料館



済物浦俱樂部倶楽部の近くに、仁川広域市歴史資料館がある。1966年、仁川市から購入して韓屋を建て、仁川市長の官舎として活用した。2001年から現在まで仁川市歴史資料館歴史資料館として利用されている。

8. 自由公園



1888年に造成された韓国初の西洋式近代公園で、1897年に造成されたソウル市のタプコル公園より9年前に造られた。公園の設計はロシアの土木技師サバティンが担当し、各国共同の租界内にあったことから「各国公園」とも呼ばれた。日本の植民地時代には「西公園」、解放後には「万国公園」と呼ばれた。その後、1957年にマッカーサー将軍の銅像が立てられた後から現在まで「自由公園」と呼ばれている。

9. 済物浦俱樂部



1901年、現在の自由公園の麓に、開港期に仁川市に住んでいた外国人の親睦を深める社交場としてロシア人のサバティンが建てた2階建てのレンガ造りの建物。1914年以降、日本在郷軍人会が使用していた時には「精紡閣」と呼ばれた。その後も米軍の将校クラブ、市立博物館、文化院など多彩な用途で使われた。2007年以降には済物浦倶楽部の昔の姿を再現した文化空間として活用されている。

10. ジャージャー麵博物館



韓国のジャージャー麵の発祥地である中華料理店「共和春 (コンファチュン)」を2階建ての建物に増改築して歴史や文化などの関連遺物を展示している博物館。

11. チャイナタウン通り



仁川駅から牌楼(門)を過ぎて丘を上っていくとチャイナタウンのメインストリートに出る。中国の伝統衣装であるチーパオ(チャイナドレス)を着た商人たちや中国式近代建築物、そして赤い色の看板や赤い提灯などが目の前に広がる。中華料理の代表メニューであるジャージャー麵、コンガルパン、中国伝統菓子の月餅、そして中国の伝統茶などが味わえる。

12. 清日租界境界階段



1883年に設定された日本の租界と1884年に作られた清国の租界の境界線にある石の階段。階段の両脇にはそれぞれの国の石塔が立ち並び、階段を上った所には中国の青島から寄贈された孔子の巨大な石像が立っている。仁川の近・現代史を端的に現しているスポットだ。階段に向かって左側が清国、右側が日本の租界。境界階段を中心に左右に異なる建築様式が見られる。

13. 楚漢志壁画通り 14. 韓中文化館及び華僑歴史館 5. 韓・中庭園の憩いの場



通りを歩きながら中国の秦王朝末期から漢王朝建国までの時間旅行が楽しめる。『楚漢志』の代表的な事件や人物などを描写した名場面が110mにわたって展開される。



韓中文化館と華僑歴史館は韓国と中国の歴史が共存している仁川チャイナタウンにある。韓中文化館では韓国と中国の文化交流のための各種公演や中国文物展示室、中国文化体験プログラムなどが運営されている。また、韓国初の華僑展示館である華僑歴史館では、1894年にチャイナタウンに定着した華僑の歴史や文化を知ることができる様々な遺物が展示されている。



中国の4大庭園のうち卒庭園と幽園をモチーフにして作られた。中国庭園の施設様式の他にも中国の伝統樹木を植え、中国の雰囲気を存分に感じることができる。多くの観光客に見どころと休息の空間として提供されている。

16. 海岸聖堂



1950年代後半、仁川善隣洞に居住する華僑を対象に宣教活動を行い、本堂が建てられた。設立当初は中国華僑のための聖堂であったが、1972年10月1日、海岸聖堂に改名され、現在は韓国人の聖堂になった。海岸聖堂は10分の殉教者を称える済物鎮頭殉教聖地を管轄している。

17. 虹霓門



鷹鳳山を貫いて仁川港と銭洞を連結するアーチ型の石門。1905年に日本の工兵隊が着工して1908年に完成した。日本はこれによって飽和状態だった日本の租界を万石洞まで確張することができ、虹霓門の上に道ができて内里教会から自由公園の上り口まで続くプロムナードが形成された。

体験写真



体験写真



体験写真



조은투어 JOEUN TOUR



電話でのお問い合わせ

82+0327773773

AM9:00-PM18:00 相談可能



アクセス

63, Sinpo-ro 27beon-gil,
Jung-gu, Incheon, Republic of Korea



ブログ

blog.naver.com/jo-euntour



SNS

[jo_euntour](https://www.instagram.com/jo_euntour)